

研究会報告

訪問場所：Futur社、Gold Shop

訪問日：2019年3月26日15:30～16:20、3月27日

田尻 雅美

熊本学園大学水俣学研究センター研究員



写真1 Futur社



写真2 Futur社玄関

会社名：Futur社 フィーチャー社エンジニアグループ（写真1.2）。

地域名：Patron Villa

採掘の大きさ：20acre（8ha）採掘権が2つある。小規模と中規模の間の大きさ。



写真3

事務所を出て歩いていく（写真3）と右側に小屋のようなものがあり、その中の作業場（写真4）で、女性が粉碎した鉱石をたらいに入れ、その後、無機水銀を入れて水銀アマルガムにしている（写真5）。その際、女性はマスクは着用しておらず、ゴム手袋は着用している。粉碎する作業小屋は写真6、7の通り。



写真 4



写真 5



写真 6



写真 7

選鉱された水銀アマルガムを2 mほど離れた作業場で、水銀アマルガムを焼き、金を取り出す作業が行われる（写真8）。この作業小屋は、壁の両面が網でつくられ、通気性がよいようになっている。



写真 8

最初に若い男性が水銀アマルガムを焼くよう準備をする（写真9）。写真9にある小さな釜に炭を入れ、火をおこす。機械を使用し風を送り、火力を強くする。



写真9

その後、やや高齢の男性が実際の作業を行う（写真10）。



写真10



写真11

焼いている作業員は男性（写真10）で48歳40年やっている。作業時間は、およそ5分、時折蓋を開けて中身を確認している。水銀蒸気を吸わないように、それ以外は、壁際の網のほうに行き、外の空気を吸っている。そうしてできたのが写真12である。ここで使用している水銀はマンドレーから購入している。1.6kg=20万kyat弱（14,200円程度 1 kkyat=0.071円）2019年3月26日現在=0.072円。

水銀アマルガム→金へ。150万kyat→46g、6割くらいが純金となる。



写真12

写真11の男性は、この会社で20年くらい働いている。40年くらいこのようなところで働いている。子どもの頃からこういう仕事をしている。現在は、メヒダ（マンダレーから30km程度、3時間くらいのところ）からきている。収入は、食事代含め月19～21万kyat。もともとは、マンダレーで父親と一緒にメヒダに来た。

写真9の若い男性の賃金は日当5,000kyat。日曜休み。入って20日間くらい。近くに居住している。

日当：若い男性：5,000kyat、女性：5,000～6,000kyat

最低賃金4,800kyat



写真13

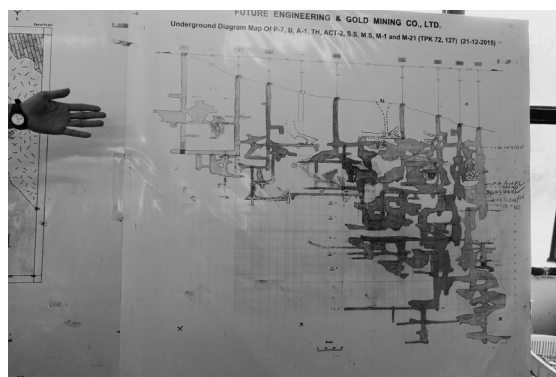


写真14

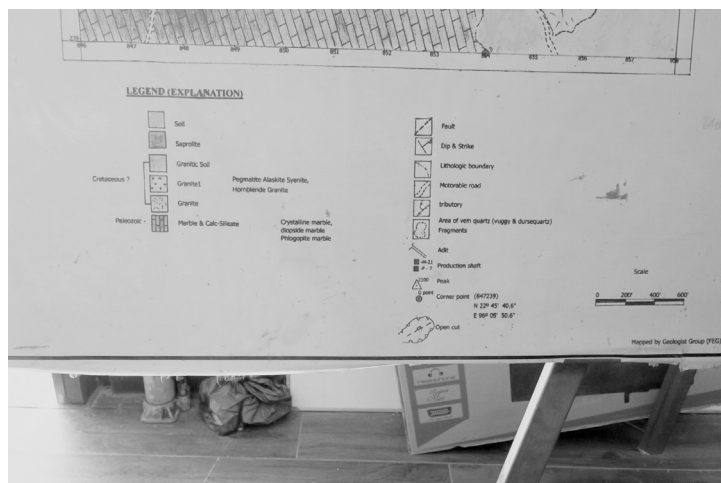


写真15

事務所内に貼られていた地図。掘っている場所（写真13. 14. 15）。

金相場 2019.3.26 販売価格 5,054円 買い取り価格 5,022円

2019.3.27 販売価格 5,055円 買い取り価格 5,024円

水銀価格 <http://www.yone-yama.co.jp/shiyaku/search/shosai-03371.html>

500 g 10,000円 2018年 5 月21日 1 g 20円

3 月27日Gold Shop

国道沿いを鉱山に向かう手前にある村の中心街（写真16）には、雑貨店、食料店、葉たばこやパンの露店などがあった（写真18. 19. 20）。バイクで移動する人が多く、天秤棒を担ぐ行商や車での行商もみかけた（写真17）。貴金属を売る店が数件あり、水銀アマルガムから金にするための小さな炉と金を測る秤が数か所の店先に置いてあった（写真21）。



写真16



写真17



写真18



写真19



写真20



写真21



写真22

最初の店

指輪やペンダントトップなどが販売してある（写真23）。ここにも秤が置いてあった。

金塊を見せていただいた。金の塊は73.28 g（写真24. 25. 26）。ミャンマーの伝統的な単位は次の通り。

ペイタ = 1,600 g

1 ペイタ = 100 チェッター

1 チェッター = 16 g

1 kyat (16.66 g) = 106万kyat (75,955円くらい) で販売している。

1 g およそ63,625kyat (日本円で45,559円)。

加工してある指輪は、2.77 g : 20万kyat

7.0 g : 45万kyat

であった。



写真23



写真24



写真25



写真26

また、サイズを変更するなど加工には1～2週間、マンダレーに出すため日数が必要。

2 番目のお店



写真27

この店では（写真27）、アマルガムを焼く高炉、買い取り、水銀の販売、シルバーの販売も行っている。ちょうど金を売りに、バイクでお店に来た男性がいた（写真28のボーダーTシャツの男性）。

ビニール袋に入った金（写真29）を計量する（写真30）。

豆3個分=3.5g=22万400kyatであった。現金をその場で男性に渡していた。



写真28



写真29



写真30

無機水銀は、この店で販売されており（写真31）、袋入りが0.6kg：2万kyat（1,428円）、瓶入りが1.6kg、20万kyat（14,280円）であった。この水銀は、マンダレーから仕入れている。



写真31

金を秤で計量する際、おもりは写真32のものを使用していた。

米 8 個 = 豆半分

豆半 2 ケ = 豆 1 個

豆 8 個 = 1 ペイ

豆16個 = 1 kyat (16.66 g)

これを秤にかけて金の金額を出す。金額は、1日3回変わる。ドルと金のレートで変わる。



写真32

店先には水銀アマルガムを焼くところがあり、写真のように女性が普段の恰好で焼いている。マスクの着用はしていない（写真33. 34）。



写真33



写真34